

令和2年度事業報告書

1 令和2年度の概要

令和2年度は、公益目的事業及びそれを支える収益事業を着実に継続するとともに、基本財産の4分の3超を自己資金とし、京都市からの経営自律化を完了した。また、令和元年度から引き続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策（以下、「コロナ対策」という）の必要により、指定管理業務やその他の事業の推進に大きな影響を受けたが、京都市等の指示・要請を受けながら、事業、法人業務の両面で対策を行い、影響の最小化に努めた。

公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、防災、良好な生活環境や地域交流等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく活動を推進した。公1事業（都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業）では、都市緑化に関する各種事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。公2事業（京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業）では、日本庭園の良好な保全管理とともに、京都の庭園文化の情報発信等を行った。このうち、梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理業務及び自主事業は、コロナ対策のため、臨時閉園（4月9日～5月17日）や施設の利用停止、利用制限（定員、時短）及び各種催事の中止等により、多大な影響を受けた。

公園収益事業では、京都市深草墓園指定管理業務において新設の集会室の運用や、安全確保のための施設改善等に努めた。各公園施設の利用料金収入は、コロナ対策の影響で大幅な減収となり、飲料自動販売機の販売手数料等収益も前年度に引き続き大幅減益となった。

法人業務においては、評議員会を1回、理事会を3回、いずれも、書面決議（みなし決議）で行った。このうち第11回評議員会では、京都市外郭団体自律化の最後の取組として、基本財産の京都市出資比率の引下げ（期末時点）を行った。

経常収益計は、利用料金収益、販売手数料収益が大幅減収となったが、事業縮小に伴う人件費や委託費の減少、岡崎公園芝生再生・保護業務受託（単年度）による収入増加等により、正味財産期末残高は前年度比プラスを確保し、10期連続で黒字となった。

2 令和2年度の事業実施状況

I 公益目的事業 決算額 224,358千円 （予算額 208,949千円）

I-1（公1）都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 201,279千円 （予算額 187,763千円）

都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。施設閉鎖等で中止とするイベントも多くあったが、定員削減や密集を避ける等の予防対策が可能なものを実施した。

(1) 緑の学校と人材育成

ア 園芸・花壇づくりの講習会

a 園芸講習会（前期・後期）

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。前期第1回は、コロナ対策のため中止した。後期は（公財）京都 SKY センターと共催し、同センター会員の参加を得て1日2回の開催とした。一部を中止した。

・講師 花と緑の普及員 駒井修

・受講者 前期 35 人／後期 58 人 ・参加者数 8 回計 364 人

	回	開催日	実施内容
前期	第2回	6月25日	ハンギングバスケットづくり実習
	第3回	7月30日	実生苗の寄せ植えと花木さし芽実習
	第4回	8月27日	多肉植物を使った寄せ植え実習
後期	第1回	10月1日	秋咲き草花を使った寄せ植え実習
	第2回	11月5日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植えの作り方
	第3回	12月10日	クリスマス花飾りづくり実習
	第4回	2月4日	バレンタインにふさわしい花飾り実習
	第5回	3月18日	春咲き草花とカラーリーフの実習

b 野菜づくり講習会（前期・後期）

玄関周りやベランダ等で楽しむ家庭菜園づくりの方法を学んだ。前期は中止した。

・講師 花と緑の普及員 駒井修

・開催日（後期のみ）8月28日、9月18日、10月9日

・受講者 後期 36 人 ・参加者数のべ 103 人

c 園芸セルフケア教室

園芸療法士（米国 HTR）の指導により、公園花壇等の植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整え、参加者間の交流を図った。

・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子 ・開催日 毎週木曜日

・受講者 20 人 ・参加者数のべ 427 人（38 回）

d 地域での出張園芸講習会等

まちなみ緑化等支援事業（(5)ア）や行政からの要請等により、出張講習会等の主催又は講師の派遣を行った。

場所／テーマ	開催日	講師	参加人数	備考
乾隆学区女性会（上京区）／グリーンカーテン教室	5月22日、11月7日	駒井修、伊藤信太郎	計40人	まちなみ緑化等支援
島原のぞみデイサービス（下京区）／植替え講習	6月4日	寺田裕美子	セルフケア受講者6人	まちなみ緑化等支援
高倉小学校（中京区）／ヒオウギ講習会	6月23日、7月6日、10月12日	秦賢二、伊藤信太郎	計60人	中京区役所主催
立命館大学（北区）／フジバカマ定植講習	7月21日	緑化協会	20人	まちなみ緑化等支援
朱雀第三小学校（中京区）／ビオトープリニューアル	9月23日、11月11日	駒井修、伊藤信太郎	計100人	まちなみ緑化等支援

朱雀第四学区・朱雀第四小学校(中京区)／京エコライフプログラム・グリーンUPプロジェクト	10月13日, 11月12日	伊藤信太郎, 杉山光弘	計 100 人	まちなみ緑化等支援
--	-------------------	-------------	---------	-----------

以下の講習会等は実施しなかった。

イ 家庭の庭づくり講座, ウ 都市の生物多様性, 京都ゆかりの和の花に関する講演会等, エ 庭園ボランティアガイド講座, オ 緑の散策ツアー

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会, 自然観察会等

自然観察会, プレイパークでの子ども及び家族向け自然あそび教室等を開き, 自然環境に根差した地域の歴史や生活文化を学ぶプログラムも行った。事前申込制などコロナ対策を徹底し, 一部は中止した。

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ, 自然の仕組みを理解していただくことを目的として, ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会いのちの森モニタリンググループ, 協会職員等。

① 月例等定期の観察会

コロナ対策のため, 予定していた4回を中止とした。

・各回の実施内容(計10回・参加者計108人)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
6月20日	植物の観察 2	11月21日	紅葉する植物
7月18日	植物の観察 3	12月19日	植物の観察 7
8月15日	植物の観察 4	1月16日	野鳥の観察
9月19日	植物の観察 5	2月20日	公園樹木・苔の観察
10月17日	植物の観察 6	3月20日	植物の観察 8

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

植物の生長を見守り, 収穫などを体験するシリーズ。全6回を中止した。

b 宝が池公園自然あそび教室

① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

遊びを中心とする通常のプレイパーク活動((7)エ)とは別に, 子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし, 遊びながら学べる教室を実施。自然観察, クラフト, 自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラム。

- ・開催日 原則第1・第3土曜日 ・実施回数 計23回 ・のべ参加人数 503人
- ・特別プログラムのテーマ 水辺の生き物発見隊, ナイトウォッチング～セミ羽化観察, 古代ものづくり体験, 夏休みキャンプ, 宝が池に水鳥に会いに行こう, 秋の虫の声を聞きに行く, 小鳥の巣箱を作ろう等
- ・共催事業(京都モデルフォレスト協会主催)「宝が池の森を歩こう, 森であそぼう」(11月28日, 28人)

イ 環境学習養成講座

a 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに, 低利用, シカ食害等の森の問題を, 座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。

- ・共催・京都府立大学森林科学科 ・場所 上高野防災会館等
- ・参加者 のべ 82人

人回	開催日	内 容／ 講 師（敬称略）
第1回	7月11日	森と水辺をつなぐいきものたち～宝が池・湿地調査／竹門康弘（京都大学／深泥池水生生物研究会）
第2回	9月27日	森をはぐくむ菌類の世界／佐久間大輔（大阪自然史博物館）
第3回	10月18日	森の基盤～宝が池界隈の地質をまなぼう／佐藤活志（京都大学理学研究科）
第4回	12月6日	森林再生のための生態学的な考え方と協働による実践／鎌田磨人（徳島大学）
第5回	2月21日	里山再生を支える国の動き～制度・政策とその活用／西田貴明（京都産業大学），「宝が池の森」保全再生協議会
第6回	1月12日	歴史ウォーク（山城・史跡から見る森の利用とくらし）／吉崎伸（(公財)京都市埋蔵文化財研究所）

(3) 花とみどりの相談所（緑の相談所）運営

ア 相談業務

植物、園芸等に関する技術的な相談を梅小路公園で無料で行っている。コロナ対策の影響で、面談件数の割合は、前年度（52％）に対し大きく低下した。

- ・相談日 毎週2日（水曜日，土曜日）及び出張相談
- ・時 間 午前10時～午後4時まで（面談又は電話による。）
- ・相談員 （4月～7月）原田弘種，野杖勝俊，（8月以降）植村久美子，ほか
- ・相談日数 111日 ・相談件数（内容別）698件（うち面談の相談13％）

イ 京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し，京都の歴史文化に密接に関係しているフジバカマ等の和の花，希少な山野草等の保全・繁殖に取組み，普及活動を行った。この一環で「京都市生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」の認定団体など希少植物保全を行う団体に対してアドバイス（出張相談），その他の協力を行った。

a 希少植物保全団体への協力

京都市生きもの文化協働再生プロジェクト認定団体への出張相談2件，立命館大学（衣笠キャンパス），KRP植栽計画，さすてな京都等

b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

- ・京都駅ビル「緑水歩廊」，京都御苑閑院宮邸前でキクタニギクを展示。11月20日～12月8日（京都駅ビル開発（株）、（一財）国民公園協会京都御苑，KESエコロジカルネットワーク協力）

c 八坂神社のオケラ育成の取組への協力

無病息災を願う祭礼八坂神社の「をけら詣り」で使われる希少な薬用植物オケラに注目し，全国の神社約60社にオケラを配布，育成してもらう取組（令和3年2月）のため，本殿のオケラ株に由来する種子の実生栽培等に協力した。

d 京都伝統文化の森推進協議会による東山・菊溪の森づくりへの協力

「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市）が2017年より林相改善事業の一環として，高台寺山国有林内の菊溪川支流で市民参加によるキクタニギクの植栽を行っているが，コロナ対策のため，令和2年3月20日，関係者約50人のみで実施した。当協会は，植栽のための苗を，KES生物多様性プログラム（下記ウ）参加企業・団体の提供により確保するなどの協力を行った。

ウ KES生物多様性プログラムへの参画

KES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証登録を行う特定非営利法人KES環境機構が実施する生物多様性プログラム「KES エコロジカルネットワーク」の企画・実施に参画している。希少植物の生息域外保全のほか、自社敷地緑化、地域活動を環境改善目標に採り入れ、計 254 団体が参加した。例年行う取組説明会、栽培講習会は中止され、令和 2 年度に扱う 8 種の栽培セットは本協会において分散して引き渡した。

- ・ネットワーク構成団体 京のアジェンダ 21 フォーラム（(公財)京都市環境保全活動推進協会）、京都市、京都駅ビル開発（株）、KES環境機構及び本協会

エ 公益社団法人日本植物園協会の活動

（公社）日本植物園協会に加盟し、同協会が呼び掛ける希少植物保全等に関し、在京滋植物園情報交換会等を通じた情報交換、相互協力を行っている。

- ・参加実績 第 55 回大会（コロナ対策のため、書面で総会に議決権行使）
- ・希少野生植物種等調査（環境省連携事業）への協力（オニイノデ）

(4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体や京都新聞社、KBS 京都等のマスメディアとの連携を図りながら、植物、緑の文化、公園緑地の多面的な大切さを訴える事業だが、大半を中止とした。

ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

- 梅小路公園グリーンフェア 2020 春／秋 中止した。
- 春の和の花展、藤袴と和の花展
中止した。恒例の「藤袴と和の花展」の代わりとして、フジバカマ等の和の花展示を、規模を大幅に縮小のうへ「朱雀の庭」で行った。
- 梅まつり in 梅小路 中止した。
- 第 36 回京都まちとみどり写真コンクール（京都府都市計画協会主催、京都府、京都市、本協会共催） 中止となった。

(5) 市街地緑化事業

ア まちなみ緑化等支援事業

まちなみ修景のため、和の花や和のイメージの容器を、施設、住宅、事業所等の敷地に設置し管理していただく活動や、地域の防犯対策として、花と緑による修景や地域の交流を図る活動への支援等を行った。（活動の一部イベントは(1)ア d に重複掲載）

- 島原のぞみデイサービスの沿道（下京区）
通りに面した「花矢来」等の植替え・管理の指導。
- 朱雀第四学区京エコライフプログラムへの協力（中京区）
通りに面したコンテナ花壇、小学校に隣接する公園の花壇づくりへの協力。
- 乾隆学区女性会「洛いもを使ったグリーンカーテンづくり」（上京区）
乾隆小学校、桑の木広場等におけるグリーンカーテンの植付・管理指導。

イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）で、沿道の事業者や市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行等の普及啓発を行う業務を

受託した。コロナ対策のため、協力いただく団体・個人の活動量は大幅に減った。

- ・全面植替え 4 回，巡回管理補助のべ 69 回
- ・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 6 回，アンケート調査 1 回

(6) 緑の団体支援事業

ア 緑のボランティア団体の活動支援(京都市緑のボランティアセンター)

各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための緑のボランティアセンター窓口運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を引続き受託した。有志団体，京都市の公園愛護協力会，街路樹サポーター等に，ニュースレターや『京のみどり』等を通じた情報提供，京都市設置の和の花モデル花壇，雨庭の管理を行う団体への支援等を行った。

- ・実績 相談 18 件，団体情報作成・展示 3 件，ニュース発行 4 件，出張相談・講習 21 件，巡回・維持管理補助 46 件

イ 「京都みどりのサポーター協議会」の運営

5つのボランティア団体と本協会で作る協議会で，御池通スポンサー花壇の活動のみ行った。

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

休養や健康づくりに役立つ公園に利用者が増加する傾向が見られたが，コロナ対策としての全手洗い場への石鹸設置，予防を呼び掛ける放送・掲示，巡回の強化等を実施し，安全安心に利用していただけるよう努めた。

ア 梅小路公園指定管理業務及び関連業務の受託

指定管理業務においては，一部施設の利用を制限する中，良好な維持管理水準と安全安心の確保に努めた。遊戯用電車（チンチン電車）運行业務（指定管理区域外，公園収益事業）については，令和2年度も京都市から受託したが，5月17日までの運行休止や定員の制限を受けた。

イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

「梅小路公園・施設管理者連絡会」，「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）」及び「京都駅西部エリアまちづくり協議会」（代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街，自治連合会，企業，寺院，行政等で構成。）のメンバーとして，公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組みに参画した。

a 梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

各公園施設の管理者が情報交換し，相互の事業の調整や協力，安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を事務局として開催した。

- ・開催日 第24回（メール会議）8月30日～9月24日，第25回（各団体1名出席による会議）12月5日（計2回）

- ・構成 京都市建設局（公園設置・管理者），オリックス水族館（株）（京都水族館），西日本旅客鉄道（株）京都支社，（公財）交通文化振興財団（京都鉄道博物館），（株）コラボ（グリーンハウスコラボ，梅小路パークカフェ），（株）京都駅観光デパート・（株）エーゲル（市電カフェ）・（株）立誠社（市電ショップ），（一財）京都市都市整備公社（駐車場，駐輪場）（株）ビバ（ビバスクエア京都），及び本協会（公園指定管理者）

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」関連受託事業等

① ルート環境整備業務等の受託

京都駅から公園に至るルート of 環境整備を目的とする巡回，モニュメント等の清掃，案内，フラワースポット（コンテナ・地植え花壇）の維持管理等を行った。

② 梅小路キッズアートキャンパス

例年は元小学校等で行われるが，2年度は会員企業が京果会館から子どもたち（各プログラム定員20人）に向けてオンラインで発信する形式となった。本協会は，梅小路公園いのちの森を紹介する動画，生きものクイズを配信。（12月6日）

c 「梅小路公園・冬芝を育てる会」による芝生広場のオールシーズン緑化

公園周辺の地域団体・企業（京都青果合同(株)，タキイ種苗(株)，梅小路公園花と緑のサポーターの会，京都みどりクラブ，下京区体育振興会，梅小路小学校，本協会）及び地元団体の長の賛同を得て，「梅小路公園・冬芝を育てる会」（本政和好代表（大内学区自治連合会会長），事務局・本協会）が「京都駅西部エリアまちづくり協議会」の補助金を活用してウインターオーバーシード手法による芝生広場のオールシーズン緑化を継続した。

d 各種イベントの開催，誘致

共催事業を実施するほか，地域団体等が主催する公益性の高いイベントは，開催協力又は誘致を行っているが，令和2年度の大規模なイベントは中止（京都市やんちゃフェスタ，下京ふれ愛ひろば等），又はオンライン開催（京都音楽博覧会IN梅小路公園）となった。開催されたおもなイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
第1土曜日	梅小路手づくり市（5月，1月，3月を除く。） ※協会共催事業。
7月19日	ビー・トライブ発表会（ダンス発表会）

ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

臨時閉園後の開園（5月18日～）においても，利用者が集中する一部遊具や屋根付き広場では利用を中止（順次解除）し，親水空間（水遊び場）は年度内の使用を見送った。また，短時間の滞在に留める人が多かった。トイレ等の小まめな清掃，コロナ対策を徹底したうえでのイベント開催に努め，特に平日の利用の拡大に努めた。

エ 多世代向け事業（プレイパーク，青空健康づくりプログラム等）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園で，子どもの「遊び，学び，体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者，平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また，だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a 梅小路公園プレイパーク

例年，毎月2回，昔遊び，集団遊び等で遊んでもらう通常プレイパークは，11月まで開催を見送った。

- ・活動日 原則第2・4土曜日
- ・実施回数 6回
- ・参加者数のべ 700人

b 梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者，または小学生を対象として，小人数による自然遊び等を行い，公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

- ・活動日 原則第2木曜日の放課後
- ・実施回数 8回
- ・参加者数 のべ 280人

c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動は12月まで中止し，それ以降は人

数を制限し入れ替え制をとった。特別イベントは大規模なものを除いて開催した。このほか、遠足等の団体に対するプログラムを以下の活動とは別に、予約制で実施した。

① 通常プレイパーク

- ・活動日 原則日曜日 ・実施回数 2回 ・参加者数 のべ 368人

② 特別イベント

- ・龍狐伝説ミニ (様々なミッションをクリアしカードを集めるオリジナルのゲーム)
11月15日 240人
- ・お月見をしよう 9月26日 23人
- ・割りばし鉄砲 DE 射的屋さん 11月1日 計4回のべ 200人

③ けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に4歳児までの乳幼児と保護者(親子)を対象に、森の散歩やもの作り等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

- ・開催日 毎月第2木曜日, 第2金曜日 (2クラス)
- ・実施回数 計20回 参加者数 のべ 439人

④ けむんぱ「森林向上委員会」(旧アドベンチャー)

児童と保護者(親子等)を対象に、プレイパークゾーン等の森の整備や散歩等を通じて、参加者間のつながりを深めるプログラム。

- ・開催日 9月22日, 12月13日, 3月7日 ・参加者数 のべ 99人

⑤ 森カフェ (&プレイキャブ)

森に囲まれたプレイパークゾーンで子育て中の家族が悩みや情報を交換できる場。プレイキャブは自然の中で遊べる場。(共催・森のようちえん どんぐり園)

- ・開催日 毎月第4月曜日 ・実施回数 10回 (特別プログラム含む。)
- ・参加者数 のべ 312人

d 青空健康づくりプログラム

① ウォーキング教室 だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を(公財)京都市健康づくり協会との提携により開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム(運動器症候群, 通称ロコモ)予防のメニューを多く採り入れた。

- ・講師 (公財)京都市健康づくり協会 健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー
- ・内容 ストレッチ, 正しい歩き方指導, 筋トレ, 脳トレ, バランス運動, 簡易体力測定, アンケート等
- ・季節ごとのテーマ

春～夏クール (4～7月)	心もカラダもスッキリと。いろんな運動を楽しもう!
夏～秋クール (8月～11月)	継続は力なり。無理のない範囲でからだを動かそう!
冬クール (12月～3月)	背スジを伸ばして寒さに負けない体力づくりをしよう!

- ・開催日 第2・第4火曜日 計20回 のべ 787人参加 (4～5月は中止)

② 梅小路芝ヨガ 広々とした公園での健康づくり, 「1年を通じて緑の芝生」の良さを知っていただくための誰もが参加できるヨガ教室。

- ・開催日 11月21日 ・参加者数 計約 120人 (2部制)
- ・講師 Yoko Ogami, Sandra Fang

オ 公園ボランティアの運営, 連携, 支援

梅小路公園, 宝が池公園子ども楽園にかかわるボランティア活動により親しまれる

公園づくりを進めた。梅小路公園では、花壇管理、ビオトープ運営、市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし、宝が池公園子どもの楽園では、子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った。

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・会員数 令和2年度末現在 36人 ・実績 活動回数 65回、参加人数のべ 473人
- ・活動例 市立白河総合支援学校生徒との花壇づくり、園芸体験活動の指導等

b 梅小路公園「園芸セルフケア教室」

園芸セルフケア教室（(1)アc）の参加者による園内花壇の整備活動。

c 市電車両の保全管理、及びチンチン電車普及啓発のボランティア活動

市電車両（チンチン電車、市電ひろば車両及び総合案内所として活用する車両）の清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、イベント時に運行していた市電の写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力をいただいている。（市電ひろば協力会、日本路面電車同好会関西支部、伏見チンチン電車の会）

カ 社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動、公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

a 総合支援学校の社会体験活動の受入れ（梅小路公園）

市立白河総合支援学校の生徒 10人の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業を交え、9月～10月の計6日間、管理活動を行っていただいた。

b 学生インターン受け入れ 中止した。

キ 円山公園巡回・案内業務

市内有数の観光地である円山公園（国名勝）の施設、樹木の枯損等の確認、サクラ開花案内や紅葉の状況等を含む問合せ対応を京都市から受託して実施した。

ク 岡崎公園芝生広場維持管理業務

梅小路公園芝生広場等の管理経験を活かし、岡崎公園の利用の中心である芝生広場の良好な維持管理に関する業務を引続き京都市から受託した。また、そのノウハウを生かす同広場芝生再生・保護業務（単年度）も受託した。

ケ 平安神宮神苑「平安の苑」再生・維持管理

平安時代に詠まれた植物を展示をする「平安の苑」の管理業務を継続して受託した。

コ さすてな京都（南部クリーンセンター第二工場）千両松の植樹・保全

(8) 広報・出版

ア 広報誌・パンフレット等の発行

a 『京のみどり』（季刊）の発行

各地の緑に親しみ歩いていただくためのマップや、緑を守り育てる地域・団体の取組を伝える特集を掲載。また、雨庭の概念と事例を紹介するシリーズ、園芸相談、プレイパーク等協会事業、京都市の公園緑地施策、市内の庭園等の情報を紹介した。制作者のコンペを実施し、97号から誌面をリニューアルした。

- ・各号の特集の概要・テーマ抜粋

第95号(夏号) 7月発行	特集「宕陰の歴史にみる人とみどりで育む景観」【右京区】 「イギリス最先端の雨庭と植物の選び方」
第96号(秋号) 10月発行	特集「秋の嵯峨野ウォーキング」【右京区】 「菓膳とつながる雨庭」
第97号(冬号) 12月発行	特集「今こそ考える「みどり」の社会的価値とは？」 「グリーンインフラとしての雨庭を京都から」
第98号(春号) 3月発行	特集「ツツジが春を彩る宝が池公園ウォーキング」【左京区】 「グリーンインフラの全国大会で京都から「温故知新」を発信」

- ・部数 各号7,000部（配布場所・配布先：市政案内所，区役所・支所，市立図書館，公園愛護協力会，全国の緑化団体等）

イ ホームページによる発信

イベント，公園施設，京都の緑の文化等の情報提供等のため，メインのホームページ（<http://www.kyoto-ga.jp/>）を運営している。アクセス件数（※）は998,104件（前年度比22.8%減）であった。このほか，円山公園の観光案内，深草墓園の利用案内，京都の庭園を紹介する海外向けサイトを運営している。

※Visits（訪問者数）30分以内の同一IPをカウントしない実質のアクセス数の指標。

(9) 調査・情報収集

施設管理や情報発信の基礎資料とするため，モニタリング等の調査・情報収集を行った。

ア 梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会によるいのちの森のモニタリング活動への協力を行った。開園から23年を経過した森の変遷と，森で見られる生き物を紹介する展示パネルを引き続き掲示し，来園者にモニタリング調査の様子を紹介した。

イ 宝が池周辺の森林

宝が池公園子どもの楽園周辺で，京都府立大学，京都大学，京都学園大学及び地域団体・事業所等で構成する「宝が池の森」保全再生協議会と協力し，ナラ枯れ被害集中箇所の更新の推移や，シカ食害の影響等の観察を継続している。

ウ グリーンインフラ・雨庭の調査研究

a 京都雨庭研究会

グリーンインフラ（GI）や雨庭の調査研究と普及を目指す京都雨庭研究会を事務局として運営するが，2年度は開催を見送った。GIの関係者が集う「グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン全国大会2020」（オンライン，2020年11月6日～8日）において，実行委員会の共同代表者である森本・当協会理事長が主催者ミーティング「『温故知新』の都市GIー雨庭枯山水と気候変動への賢い適応」を開催。京都雨庭研究会と研究者でつくる伝統的雨庭研究会のメンバーが情報発信を行った。

b グリーンインフラ官民連携プラットフォームへの入会

全国の行政，民間業界の情報を得ながら啓発や推進に役立てるため，国土交通省が令和2年3月に設立した「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム（事務局・国土交通省）」に入会（三号会員）し，情報交換を行っている。

I-2 (公2) 京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 22,726 千円 (予算額 21,186 千円)

京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として、庭園の保全管理業務、その中での庭園講座等への活用、及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに、活用策としてイベント等を行った。

a 紅葉まつり

紅葉期間中の夜間活性化策として、例年好評の「朱雀の庭」ライトアップを自主事業として実施し、ホームページ等の広報、周辺施設、ホテル等へのポスター、チラシ配布を行った。コロナ禍にもかかわらず、前年度比 37.5%増の入込があった。

・期間 11月13日～11月29日(15日間) 入園者数 7,574人

イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し、広報誌「京のみどり」、ホームページにおいて、庭園を実際に訪れていただくための発信を行った。また、海外に向けた日本庭園の情報発信のため、造園関係団体と協力して英文サイトを立ち上げ、令和2年3月から19庭園の英文記事を掲載している。

ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

a 庭園文化講座

- ・講師 吉田昌弘
- ・受講者 のべ64人
- ・各回の実施内容

第1回	1月27日	(座学) 中世の庭 (見学) 等持院庭園
第2回	2月10日	(座学) 近世の庭 (見学) 智積院庭園
第3回	2月24日	(座学) 近代現代の庭 (見学) 東福寺

b 庭園ガイド活動

庭園ガイドボランティアによる、朱雀の庭・いのちの森のガイド活動で、個人向け(原則月1回)、団体向け(予約制)として実施した。

- ・ガイド実績 計9回実施 のべ案内人数64人

c (一社) 日本造園修景協会「伝統庭技研修会」研修会の企画運営への協力

全国の造園家等を対象にした庭園研修会の企画運營業務は、中止となった。

d 宿泊施設従業員向け歴史・文化研修事業の企画運営への協力

京都市及び(公社)京都市観光協会が実施するホテル・宿泊業関係者向けの研修事業の一分野として、日本庭園をテーマに研修の企画立案と講師派遣を行った。

- ・日程 2月16～17日
- ・場所 二条城からのオンライン配信
- ・講師 武田純
- ・参加者数 27人

II 公園収益事業

決算額 144,209 千円 （予算額 177,307 千円）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業，自動販売機飲料販売事業，国立京都迎賓館庭園保全管理業務，深草墓園指定管理業務の受託等を行い，その収益を公益目的事業，及び法人業務の財源とした。

ア 自動販売機飲料販売事業

飲料自動販売機の設置は令和元年 8 月以降，梅小路公園及び子どもの楽園のみとなったうえ，2 年度はコロナ禍の影響も加わり，収益は元年度比で 34% 減となった。

イ 梅小路公園収益事業（貸室，遊戯用電車等）

貸室は、利用の停止期間、時短、利用定員の制限等により収益が大幅に悪化した。遊戯用電車運行業務は、運休期間、乗車定員の制限の影響を受けた。

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

閉園期間（4/9～5/17）があり，コロナ禍にもかかわらず，平日の取組の充実などにより堅調な利用があった。

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について，内閣府からの受託事業として，造園に携わった造園業者とともに，管理保全指針に基づき，計画的な景観づくりに努めた。

オ 深草墓園指定管理業務

納骨事務のマニュアルの整備に努めるとともに，公園管理の経験を生かし，中長期的視点に立った植栽管理のための樹木整理やバリアフリー，防犯，ハザードの除去に努めた。新設された集会室棟の利用が 6 月から始まり。コロナ対策のため定員制限を守りながら利用を案内した。京都市主催の秋季・春季追悼式典は、コロナ対策のため中止となり，規模を大幅に縮小した遺族代表主催の式典のみの開催となったが，その模様をお伝えするため，収録してホームページで動画配信した。

III 法人業務

決算額 4,080 千円 （予算額 3,164 千円）

京都市外郭団体中期経営計画（平成 30～令和 2 年度）に基づく経営自律化を果たすとともに，公益認定関連の法令及び内外の情勢に対応し，法人業務を行った。

(1) 理事会・評議員会

理事会を 3 回，評議員会を 1 回開催した。第 17 回理事会及び第 10 回評議員会では，決議事項とは別に京都市出捐率引下げの方針，方法及び時期について事務局からの説明及び質疑を行った。第 11 回評議員会では，京都市外郭団体自律化の取組として，基本財産の京都市出捐比率引下げ（自己資本による造成）の決議を行った。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 19 回理事会 (書面決議)	令和 2 年 5 月 30 日	令和元年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第 20 回理事会 (書面決議)	令和 2 年 7 月 15 日	理事長及び専務理事の選出
第 21 回理事会 (書面決議)	令和 3 年 3 月 29 日	令和 3 年度事業計画及び収支予算の件 令和 3 年度資金運用の執行方針及び計画の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 11 回評議員会 (書面決議)	令和 2 年 6 月 23 日	基本財産の取り崩し及び造成の件 令和元年度収支決算の件 理事選任の件 監事選任の件 評議員選任の件

(2) K E S 環境改善活動の継続と認証

平成 29 年度に再取得した K E S (京都環境マネジメントシステム・スタンダード) の環境改善活動として省資源, 地域清掃, 及び希少植物保全活動等に引き続き取り組んだ。

(3) 事業推進積立金への積戻し

令和元年度当初に新規事業の円滑な推進のため, 事業推進積立金 1,500 万円(1号財産)を取り崩し流動資産に変更した。3 か年で積み戻しを行う計画のとおり, 元年度に引き続き 2 年度も 500 万円を事業推進積立金に積戻した。

事業報告の附属明細書について

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。